

# オウム対策住民協議会ニュース

鳥山地域オウム  
真理教(現アレフ)  
対策住民協議会

## 新年の挨拶 「住民と共に」

住民協議会  
編集委員会

### 東日本大震災被災者へ義援金

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年3月11日「東日本大震災」による地震と津波に襲われ、岩手・宮城・福島3県を中心に、かつて経験したことがない被害に見舞われました。

東京電力福島第一原子力発電所からの、放射性物質の飛散も大量で広範囲に及び、農地や農産物への放射能被害や、子供たちへの長期間の対策も不可欠となりました。オウム真理教対策住民協議会は、震災後の4月にリサイクルバザー会場でも募金活動を行い、バザーによる収益の一部も含め、被災された皆さまに義援金を送る事ができたのは大変有意義でした。復興への支援は持続性が大切と考え、住民協議会では可能な限り被災者に寄り添って行くつもりです。

### 「観察処分」期間更新決定

昨年の最大の活動「観察処分」期間更新要請署名では、各種団体、世田谷区民、地域住民の皆さまにご支援、ご協力を頂き感謝申し上げます。5万筆を超える署名が集まり、皆さまの関心の高さを実感いたしました。既に報道等でご存知のように、今年1月にオウム真理教(アレフ・ひかりの輪)に対する3年間の「観察処分」期間更新が決定されました。さらにオウム真理教事件裁

判は11月に終結、元幹部信者への判決は、元教祖麻原彰晃を含む13名が死刑、元幹部信者、林郁夫を含む5名が無期懲役、1名が懲役刑に決定しました。地下鉄サリン事件で12名を殺害、その他事件を含め、合計30数名を殺害したこの団体の特異性の解明が待たれます。

鳥山地域居住のオウム真理教は、アレフが昨年3月で足立区へ移転し、現在居住しているのはひかりの輪10名余りとなりました。この結果はアレフの戦略的要素を差し引いても、住民協議会の長期にわたる活動に依るところは見逃せません。その住民協議会では、会長の田中光男氏が11月に急逝

されました。住民協議会活動には長年多大な貢献をされました。大変貴重な方を亡くし、悲しみをこらえて多くの会員が見送りました。

このように昨年は、社会問題、オウム真理教問題、住民協議会活動でも、私たちは様々な事を経験し、時代の転換点を感じ、一年でもありました。今年で地下鉄サリン事件から17年が経過、当時10歳の子供が今年27歳、オウム真理教を知らない世代が増加し、オウム真理教問題の形骸化も一層加速することは否めません。マスコミも元信者の死刑報道へとシフトし、やがてオウム真理教関連の記事が終息、社会への喚起は減少するでしょう。昨年末、目黒公証役場事

務長、拉致監禁致死に関わった、元信者平田容疑者が出頭しマスコミを賑わしましたが、これも一過性で、すでに新聞紙面からは消え去りつつあります。世論の関心の低下は、今後の住民協議会活動への影響が心配されます。関心の直接の相手は、ひかりの輪のみとなり、活動方法の見直しも必要に迫られます。住民協議会が日常的に行ってきた監視活動、署名・募金活動、抗議デモ・学習会、リサイクルバザー、住民協議会ニュース発行なども、住民の意見に耳を傾け、内容・形態などの創意工夫が求められます。「住民と共に」の精神を忘れる事なく、今年も全力で活動いたしますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

## 4回目の「観察処分」期間更新決定

1月23日公安審査委員会は、団体規制法に基づきオウム真理教への4回目の「観察処分」更新を決定した。公安審査委員会は、「元教祖麻原彰晃の影響が依然として強く、危険性がある」と判断した。これによりオウム真理教(アレフ・ひかりの輪)の両派とも、継続して公安調査庁の監視下に置かれ、全国に点在するオウム真理教施設へ公安調査官の立入検査、信者の名簿提出、財政書類の提出などが義務づけられる。

今回ひかりの輪は、「観察処分」から逃れる事を目指し、様々な画策を行い処分が危ぶまれていたが、その思惑は実ることはなかった。

住民協議会では世田谷区民、各種団体の支援もあり、5万筆以上の署名を集め国への要請なども行い、期間更新にも少なからず貢献してきた。これにより地域の安全が保障されるが、住民協議会は今後もオウム真理教が「解散・解体」するまで闘い続ける。

### 第二弾 東日本大震災復興支援

# リサイクルバザー

新品いっぱい

4月14日(土) 10時  
鳥山区民センター広場(雨天決行)

11年間活動を続けてきた住民協議会にご協力をお願いします。

“今年もリサイクルバザーを行います”  
今年で6回目となりました、住民協議会主催のリサイクルバザーです。住民協議会活動の活動資金を得るためのバザーです。皆さまのご協力をお待ちしております。昨年に引き続き被災地復興支援もいたします。

### 物品提供お願いします

次号、3月12日発行 住民協議会ニュースにて物品受付の場所・時間を詳しくお知らせいたします。

### ～受付商品～

石けん・アクセサリ・乾物類・おもちゃ・陶器類・ハンドバック・シーツ・タオル・婦人服・紳士服・子ども服など  
※衣類は新品あるいはクリーニング済みの物をお願いいたします。物品によっては、お受けできない場合もございます。

## 滋賀県湖南市オウム真理教抗議集会

滋賀県湖南市平松地区のオウム対策委員会では、11月27日、第28回抗議集会を湖南市文化ホールで260人を集めて開催をした。当協議会から古馬事務局長が参加をした。

湖南市平松地区は京都駅から琵琶湖線、草津線と乗り継いで甲西駅で降りる。ここは安土、桃山、甲賀、伊賀といった歴史に出てくる地名の内側にある。この文化ホールから車で5分程行った山の頂に木造平屋建ての小さいオウム施設があった。その直ぐ上に住民の飲み水を作る浄水施設がある。地域住民はここに何か入れられたらと不安を抱く。

抗議集会は10時30分から始まり、最初に釣田正統委員長がオウム関連の刑事裁判が終結したことを受け、「一端の区切りは付いたが、まだ甲賀市や湖南市内に関連施設があり、心配を抱きながら生活している。闘いは終わらない」と話した。続いて谷畑英吾湖南市長がオウ

ム問題に取り組む委員会への感謝と今後の協力を述べた。その後、地元選出の奥村展三衆議院議員が、「オウム問題は抜本的に法整備をしていかななくてはならない。今、石川県選出の馳浩衆議院議員らと勉強会を立ち上げて検討中である」と挨拶した。続いて役員が壇上に上がりシュプレヒコールを行った後、公安調査庁が教団の現状報告を行った。公安調査庁が湖南市の抗議集会に参加するのは初めてとのこと。抗議集会は12時30分閉会した。



## オウム真理教元信者 平田信容疑者出頭・逮捕

2011年12月31日深夜、オウム真理教元信者、平田信容疑者が警視庁に出頭し逮捕された。1995年2月に目黒公証役場事務長、仮谷清志さんを拉致、旧上九一色村のオウム真理教施設に監禁、3月殺害に関わった容疑で他の2名の信者を含め、警察庁から特別手配されていた。一方今回の平田容疑者の出頭騒ぎの顛末は、まるでマンガの世界を見ているようだ。テレビ・新聞紙上でも明らかにされているが、現在の警察の体質の甘さが露呈したともいえる。

それはさておき、平田容疑者の出頭がなぜ今なのかの方が興味深い。拉致・監禁・殺害事件については、車を運転しただけで殺害は無関係、教団のやり方に疑問を持ったと言及。滝本弁護士との接見では、「麻原彰晃死刑囚の裁判での醜態を見て信仰心も帰依も失せた。出頭理由は、国松検察庁長官銃撃事件が時効となり、誤認逮捕がなくなったから。東日本大震災で不条理な事を見て

自分の立場を改めて考え、2011年中に出頭したかった」と語った。

平田容疑者には、宗教家の自宅へ時限式爆弾を仕掛けた容疑が別にあるが、地下鉄サリン事件には無関係で、拉致・監禁・殺害事件でも監禁・殺害に関わってなければ、死刑判決はない。なぜ17年間も逃亡生活を続けなければならなかったのか、そして昨年末突然出頭した事への答えは納得がいかない。一部でいわれる「麻原彰晃の死刑執行延長が目的」も真実味はあるが、元教祖への信仰心は無くなった、との本人の言葉が本心であれば無理がある。警察の調べは逃走経路、教団や信者との接触へと向けられ、マスコミは、興味本位な報道が先行する。

いずれにしろ、平田容疑者が知り得る真実を、裁判ですべて語り、関わった事件や、オウム真理教について明らかにし、罪を償う事が自身に課せられた責務であろう。

## 住民協議会活動報告

- 12月19日(月) 実行委員会
- 12月22日(木) 区主催「オウム真理教問題」講演会参加
- 1月12日(木) 事務局会議
- 1月17日(火) 烏山・給田地区合同新年会で募金活動
- 1月24日(火) 実行委員会

- 1月30日(月) 協議会ニュース112号初校正
- 2月5日(日) 「中学生のつどい」で募金活動
- 2月6日(月) 協議会ニュース112号再校正
- 2月9日(木) 事務局会議
- 2月11日(土・祝) 「からすやま新年子どもまつり」で募金活動
- 2月14日(火) 協議会ニュース112号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。